

令和4年度 稲沢市地域自立支援協議会 第3回就労支援部会 議事要旨

[日 時] 令和4年9月27日(火) 午後2時～午後3時20分

[場 所] 稲沢市役所 第1分庁舎 2階 第3会議室

[出席者] 就労支援部会委員8人、事務局3人

[欠席者] なし

あいさつ(部会長)

[議 事]

1 協議事項

(1) 企業のための見学会について

事務局 案内チラシと、当日の日程、アンケートと周知方法について案を説明する。

事務局 サポートデスクへの周知についてお願いしたい。メールでデータを送付することができる。

委員 A 来月の初めに一宮市の協議会での部会があり、直接お渡しすることができる。チラシを配布していく。

チラシについて今回、見学先企業の住所を記載していなかったのも、次回は企業のウェブサイトのQRコードなどを表示していくとよい。

部会長 稲沢市の障害者雇用促進キャンペーンについて教えてほしい。

委員 B 9月21日に4社訪問した。市役所とハローワーク一宮、津島と、商工会議所が同行した。1社目は大型車両や冷凍車の商用車のエンジンを再生している。社員は60名ほど。雇用については情報がなく行っていなかった。見学会の案内をした。2社目は自動車部品製造。本社は70～80名。障害者雇用を検討したことが無い。それまで事務所が他市にあったが手狭で本市に移った。バリアフリーや衛生安全面に配慮した事業所になり今後検討課題となっていた。見学会の案内をした。午後から津島管内で平和地区にいった。3社目は介護事業者で社員280名、そのうち6人は障害者。身体障害4人と精神障害2人。短時間就労なので雇用にカウントされない方もあり2.5人で不足だった。6人雇用していて困っていることを聞いたが特段無い。職場の理解もあるということだった。今後も機会があれば雇用していくという意向だった。見学会の案内をした。4社目は社員60人、雇用は過去に1人有。就労した後に障害になり、問題はなかった。その他はない。製造業はハードルが高いので始めづらいと言われていた。見学会を案内した。3社目以外は雇用について知らないから検討したことが無いと言われていた。そもそも知らないということで、情報をもらえれば検討したいと言われたので、キャンペーンにかかわらず、企業に周知していけば、参加したい企業が出てくるのではないかと思った。

部会長 昨年までの見学会と変えて、1日だけだと日程が合わないということがあり1週間の期間を設けて行くこととした。5日間も外部から人が入ることは大変だが、ボラ

ンティアみたいに引き受けてでも皆さんに見てほしいという思いを伝えたい。見てもらって伝えていきたい。今回、2か所で特別日程を入れて、見学だけでなく情報としても学習してもらい雇用について学んでもらえたらと思う。良い企画だと思うのでたくさん参加できるようにしていきたい。キャンペーンの話を聞いて、これだけやっても知らないという企業があることを多いことが分かったので地道にコツコツやるしかないと思う。特別支援学校は10月が実習なので企業をまわられると思うので、周知してほしい。

委員 A 本番 25 日に現地に行けばいいか。

部会長 中身について打ち合わせは必要か。

委員 A 中身というか、時間までに現地に行けば、部屋とかは案内していただき役割をはたしてこればいいか。

事務局 事前に会場を見たいということなら、企業のご協力が必要だが、部屋の確認とかはできる。資料の共有などはメールのやり取りでできる。講師になっていただく4者のお考えでできる。

委員 A 大丈夫です。後は資料を印刷していただけるなら、いつまでという事を教えて欲しい。資料の期限は教えて欲しい。

委員 C 40 分間で2者なので 20 分ずつということでもいいか。(良い)

委員 D 学校は概要の資料があるので用意したい。

委員 A 集合時間はどうか。

部会長 10 時からなので、9 時 50 分。10 分あればいい。

事務局 事務局は受付だとかがあるのももう少し早く行く予定。

(2) その他

・障害のある方の就労に関する課題等の把握について

事務局 障害者計画作成のためのアンケートの実施状況について説明。これまでの企業見学会参加企業へのアンケートを実施していくこと。ハローワークから、障害者の雇用状況について情報提供を受けていきたいことについて説明する。

部会長 アンケートの回収率はどのくらいか。

事務局 目標を 50 パーセントにしている。回収率向上のためにウェブ回答も受け付けている。ウェブの回答も入ってきていると聞いている。後日報告したい。

2 その他

(1) 就労支援事業所連絡会について

事務局 就労支援事業所連絡会（8 月 22 日）について報告する。

(2) 福祉まつりについて

事務局 10 月 22 日福祉まつりについて案内

委員 D 実習の依頼に行った際に A 型事業所から、いなざわ特別支援学校の進路相談は大丈夫かという声があった。なかなか保護者にうまく伝わらないことがある。学校でも進路説明会を開いているが、来てくれない保護者がある。そういう方は卒業まじかになり、なぜ企業に行けないかと言う。北名古屋市では事業所の連絡会に年 2 回参加させていただいている。もしよければ稲沢市の連絡会にも参加したい。進路相談の進めかたについて説明したい。福祉事業所については学校から推薦していない。企業については推薦している。障害者雇用について障害があると皆採用してもらえると勘違いされている保護者がある。障害があっても応募して試験を受けて仕事ができると判断されないといけないという事を説明している。福祉事業所の希望をだされても企業で働けるといふ生徒もいる。そういう子には企業を案内している。PTA の相談会もコロナでできていないが、コロナが落ち着けば再開したいと思っている。

部会長 特別支援学校だと保護者と学校とのベクトル合わせが難しいと思う。保護者は企業へと思ってもそれだけの力があるかということ。先生は良く見て理解していると思うが、その辺のギャップはどうしているか。

委員 D 近隣の学校へもアナウンスが必要だと思っている。中学校では特別支援学校にいれば就職ができるといわれている学校があるが、その辺も訂正しないといけないと思っている。

委員 A 連絡会の感想になるが、昨年愛知県で福祉の支援員向けに、雇用に向けての相談窓口ができて研修会や調査をしていて、福祉事業所から企業へ送り出すというテーマで会議を開催したが、ちょうどそういう流れができていて、それがきっかけや、転換期でもあると思うが、稲沢市の A 型でもそういう動きをしてくださっていて、事業所として送り出していく気持ちを感じられている。そういう情報交換があってもいいかなと思う。一宮市では B 型でもそういう動きがある。緩やかな訓練からはじまり、一般企業に送り出す動きがみられる。稲沢市でもそういう流れができるといいかなと思います。これからの形として法律的には一般就労で働いていて力が衰えてきて B 型へということや、就労中だけでも B 型も利用して、また働けるようになったら企業へという事も考えられていく時代になっていく。若い方で卒業後の B 型の窓口だけでなく、いろんなパターンで企業とか地域とかと繋がりを持ちながら B 型としての役割を果たしていく時代になるかなと思う。そういうところの議論が会議に入ってくると良いと思う。産学連携も検討していただいてうれしいが、支援力を高める実践報告会に参加していて、先進地の B 型を見ると、一般企業への送り出しもやるが、企業目線で、B 型事業をやる会社、ということで、飲食業は福祉事業でない部分だが、オープンキッチンで食材を作るのは B 型事業所としてやるという事業所が紹介されていた。良い意味で福祉の雰囲気

を感じさせない、地域で勝負するという気概を感じる。そういう精神は必要じゃないかと思う。尾張地域はまだ福祉事業所だから仕方ないという空気があるが、三河に勉強に行くことも以前は話していた。そういう目線も大事かなと思う。難しいけれど。そういう議論ができるようになるとよい。

部会長 うちは製造業で、部品組み立てで働きやすいが、年齢的に今までできてきたことができなくなってくる方がある。今後どうしていいかというのが課題になっている。それこそ福祉の方と連携しながら受け皿としての仕事ができるといいかなと思う。

委員 A 本当にそうだと思う。これまで元気で働いてこられた方の次のステージの問題とか、支援していても、一般企業と福祉就労を繰り返しながら生きている人も多くいるのでそういう意味では、地域で B 型にいき、社会から断絶して生きるのではなく地域の事も感じながらやってくるとよい。

部会長 2 次障害が出てくる人がある。発達障害で入ってきた方が脅迫性障害になり何度も手洗いをしたりスイッチを切ったりしてしまう。そういう症状が出てくると一般就労でどうしていけばいいかなと思う。

委員 A 医療とも連携が必要だと思う。発達障害の方は拘りの強さからそういう強迫性みたいなことになってしまう方がある。少しでも困るときは企業だけで考えることは難しいので福祉と連携していくとよい。医療の意見を聞いてみようという事になると思う。

部会長 一般就労でと思うがどこかで支援機関とつながると就労しやすいと思う。そういうことでつながったら良いと思う。雇用といっても裏にはいろんな問題はあるので声をかけながら、フォローができる機関があるといってすすめていけるとよい。

委員 E トラブルはある。半年は定着支援でかかわっているが、その後のトラブルどうしようと聞かれる。せつかくうちから入った方なので、関わっている。4 年前に就職した方の企業からも相談がある。

委員 F コロナで休業したときに休む日が多くなり、出社できなくなった方はあるが、それ以外にトラブルはない。特別支援学校から良い子が入ってくれている。

部会長 抱えるのではなく相談しあいながら進めるとよい。

委員 G 雇用キャンペーンでも言われたし、商工会の部会でも企業から困っていることとして言われるのは、100 パーセント人材不足どの企業も言われる。企業はもちろん儲けてなんぼ。その中の人材不足は追い風。今回も企業の人材不足に対しての雇用促進。企業としてこういうことなら可能性があるのか、人材不足の解消につながる追い風の時期であることを尾張と三河の話聞いて感じた。尾張地区は当初の受け入れが難しい。三河は商魂たくましい。利益に対して追求がある。雇用でも言えると思う。障害者でも雇用して利益につなげようということがわかる。三河の成功例をみると尾張に繋がってくるのではないかなと思う。これからの仕掛けで追い風になる。雇って下さい、ではなく雇ってみませんかという時期に来ていると思う。来

年再来年になっても人材不足はあるので企業にとっても大切な事業になると思う。

委員 H 企業を訪問している中でも人材不足はよく言われる。今回見学会のチラシをお渡しして反応が良かったというのはある。中々人材不足だが障害者を穴埋めにするという話をすると分かったと言われませんが、こういうイベントがあると反応がいいと感じた。やることで理解が深まる機会になると思う。